

令和7年度啓発の記録



令和7年度明るい選挙啓発動画コンテスト最優秀賞受賞者
内田千雪さん（宮崎県立日南振徳高等学校） ※写真左から2人目

宮崎県選挙管理委員会
明るい選挙宮崎県推進協議会

は し が き

令和7年度は参議院議員通常選挙、衆議院議員総選挙をはじめ、県議会議員補欠選挙、5つの市長選挙、4つの町長選挙、2つの村長選挙、2つの市議会議員選挙、4つの町議会議員選挙、2つの市議会議員補欠選挙、1つの町議会議員補欠選挙が執行されました。このうち、衆議院議員総選挙は、36年ぶりの2月執行や衆議院解散から投開票日までの期間が戦後最短となりました。短期間の中で準備や周知等に御尽力をいただきました皆様に対しまして心から感謝申し上げます。また、投票率に目を向けますと、衆議院議員総選挙の投票率は、小選挙区で53.37%、比例代表で53.36%と、前回（令和6年）の小選挙区・比例代表50.61%を上回る結果となりました。

この間、宮崎県選挙管理委員会及び明るい選挙宮崎県推進協議会は、臨時啓発として、テレビCMや新聞、SNS広告等を通じて選挙人に周知したほか、大型商業施設等で街頭啓発を行うなど、投票率向上に向けて啓発活動を行ってきました。

また、令和7年度は常時啓発事業として、これまでに引き続き、明るい選挙啓発ポスター・書道作品コンクール、ポーターズ・ゼミ、選挙啓発動画作品コンテスト等を実施しました。このうち、明るい選挙ポスターコンクールにおいては中央審査の結果、本県高校生の作品が入賞したほか、選挙啓発動画作品コンテストは過去最多の55作品の応募を受け付けたところです。選挙出前授業等の取組についても、県及び市町村において47団体（6,355名）を対象として実施されました。

今年度は県知事選挙が執行されるとともに、複数の市町村において、長の選挙及び議会議員の選挙が予定されており、引き続き選挙啓発の取組が求められています。

今後も、一人でも多くの有権者が積極的に選挙に参加されるよう関係団体の皆様と一層の連携を図りながら、より効果的な選挙啓発の推進に努めてまいります。

最後になりますが、選挙の啓発につきましては、市町村の選挙管理委員会並びに明るい選挙推進協議会、宮崎県教育委員会、報道機関及びその他関係各位に多大な御協力をいただいておりますことをここに改めて深く感謝申し上げます。

令和8年5月

宮崎県選挙管理委員会	委員長	成 合	修
明るい選挙宮崎県推進協議会	会 長	田 原	新 一

目 次

I 常時啓発の取組

1 明るい選挙推進事業の主な実績（概要）	1
2 明るい選挙推進事業の取組（詳細）	
（1）啓発事業	
①明るい選挙推進懇話会	3
②明るい選挙啓発ポスター・書道作品コンクール	7
③政治と選挙を学ぶ「Voter's Seminar」	12
④明るい選挙啓発動画コンテスト	13
⑤わけもんの主張	14
（2）研修事業	
①若者リーダーフォーラム（九州ブロック）	28
②明るい選挙リーダーフォーラム（九州ブロック）	28
③地域コミュニティフォーラム（九州ブロック）	29
④九州各県選挙管理委員会職員選挙事務・選挙啓発研究協議会	29
⑤代表者会議・全国フォーラム	30
3 その他の取組	
①選挙出前授業の実施	31
②学校関係者への説明	33
③総務省主催「主権者教育キャラバン」への協力・参加	33
④住民票異動に関するチラシの配布	33

II 臨時（選挙時）啓発の取組

参議院議員通常選挙	34
宮崎県議会串間市選出議員補欠選挙	38
衆議院議員総選挙	39

I 常時啓発の取組

1 令和7年度 明るい選挙推進事業の主な実績（概要）

（1） 啓発事業

事業名	事業の概要
①明るい選挙推進懇話会 令和7年度の取組に係る懇話会の開催	開催日：令和7年5月13日（火） 場 所：県庁本館 講堂 参加者：明るい選挙宮崎県推進協議会委員等 20名
②ポスター・書道作品コンクール 政治や選挙に関する啓発作品募集 （小学生～高校生）	募集期間：令和7年5月12日（月）～9月8日（月） 応募状況：ポスターの部 506点 書道の部 6,376点 中央審査会への提出：11点（ポスターの部） 作品の審査：令和7年9月19日（金） 展示会開催：令和7年10月1日（水）～5日（日） 展示会場所：イオンモール宮崎
③政治と選挙を学ぶVoter's Seminar （ポーターズ・ゼミ）	開催日：令和8年2月13日（金）2コマ 参加者：勇志国際高校の生徒（20名） 内 容：学校の授業を利用して以下の内容を実施 ①イントロダクション（選挙の基本、投票率の現状等） ②グループワーク（課題解決案の検討） ③グループ発表・投票
④未来へつなげる！ 選挙啓発動画作品コンテスト （高校生以上の個人又はグループ）	募集期間：令和7年7月1日（火）～10月31日（金） テーマ：投票いいじゃん！～自分の声、届けに行こう！～ 応募状況：55作品 作品の審査：令和7年12月10日（水） 表彰式：（衆院選により中止）
⑤第20回わけもんの主張 若者の政治や選挙に関する意見発表会 （15～29歳）	（支会予選） 開催日：令和7年12月～令和8年1月 （本選） 開催日：（衆院選により中止） 意見発表者：－ 作品の審査：－

(2) 研修事業

事業名	事業の概要
①若者リーダーフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和7年5月17日(土) 場 所：佐賀県佐賀市(サンシティ) 参加者：2名(学生1名、事務局1名)
②明るい選挙参院選全国フォーラム	開催日：令和7年5月26日(月) 場 所：東京都千代田区(ホテル ルポール麹町) 参加者：2名(明推協会長、事務局1名)
③地域コミュニティフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和7年10月21日(火) 場 所：長崎県長崎市(出島メッセ長崎) 参加者：なし
④九州各県選挙管理委員会職員 選挙事務・選挙啓発研究協議会	開催日：令和7年11月4日(火) 場 所：沖縄県那覇市(八汐荘) 参加者：2名(事務局2名)
⑤明るい選挙リーダーフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和7年12月15日(月) 場 所：熊本県熊本市(熊本城ホール) 参加者：2名(明推協会長、事務局1名)
⑥代表者会議・全国フォーラム	開催日：令和8年3月3日(火) 場 所：東京都千代田区(ホテル ルポール麹町) 参加者：2名(明推協会長、事務局1名)

(3) その他の取組

事業名	事業の概要
出前授業の実施 県選挙管理委員会、市町村選挙管理委員会の取組	実施時期：令和7年4月～令和8年3月 実施件数：小学校 10校 中学校 12校 高校 11校 支援学校 4校 大学・専門学校 2校 その他 8団体 合 計 47団体 ※市町村選挙管理委員会実施分含む。うち県選挙管理委員会実施は9件
「主権者教育推進リーダー研修会」での説明 (宮崎県教育委員会主催)	日 時：令和7年5月12日(月) 会 場：ひなたサンマリスタジアム宮崎 会議室 参加者：県立学校の教員等 約60名
「主権者教育キャラバン」への協力・参加 (総務省主催)	日 時：令和8年1月8日(木) 会 場：県企業局庁舎1階 県電ホール 参加者：県・市町村の選挙管理委員会、議会事務局、教育委員会事務局の職員 60名

2 明るい選挙推進事業の取組（詳細）

（1）啓発事業

① 明るい選挙推進懇話会

明るい選挙宮崎県推進協議会の委員が一堂に会し、前年度の取組内容の報告と、当年度に計画している啓発事業等について、意見交換を行いました。

- 開催場所 県庁本館 講堂
- 開催日時 令和7年5月13日（火）
- 議 題
 - 1 令和6年度明るい選挙推進事業実績
 - 2 令和7年度明るい選挙推進事業計画
 - 3 選挙啓発団体の活動紹介
 - 4 意見交換



令和7年度明るい選挙推進懇話会 議事録

日時：令和7年5月13日（火）
午後1時30分～午後3時
場所：県庁本館講堂

議事等：

- (1) 令和6年度明るい選挙推進事業実績
- (2) 令和7年度明るい選挙推進事業計画
- (3) 選挙啓発団体の活動紹介
- (4) 意見交換

○ 吉岡副会長（宮崎日日新聞社）

若者は大人から言われるより同じ世代の人たちから言われた方が響くと思うので、NPO法人ドットジェイピーさんのような活動は大切だと思う。ポーターズ・ゼミについては、ブラックバイトや高校無償化など高校生にとってより身近な問題を取り扱うとよいのではないか。現状では実施数が限られているが、マニュアル化して学校側や市町村だけで実施できるようにするなど、取組を広げてほしい。

○ 清藤委員（MRT宮崎放送）

NPO法人ドットジェイピーさんのように学生が自主的に活動することは大切だと思う。近年はSNSなどで真偽不明の情報が出回るといった問題も生じている。投票率向上の取組とあわせて正しい情報を選択し、判断する力を身につけてもらうことも必要と考える。

○ 寺田委員（UMKテレビ宮崎）

若い世代のみならず40代や50代の投票率も高くはないため、報道機関としてのアプローチの仕方も見直していかなければならないと感じた。NPO法人ドットジェイピーさんが活動をする中で、実際に周囲からどのような反応があったかも伺ってみたい。

○ 黒木氏（宮崎県市町村選挙管理委員会連合会）

宮崎市制100周年記念事業として「みやっ子タウン」というイベントを開催した。子どもたちに様々な仕事を体験してもらい、お金を稼ぐことや納税することを学ぶ取組で、その一つとして、みやっ子タウンの市長選挙を行い、模擬選挙を体験してもらった。

○ 竹村氏（県高校教育課）

5月12日に各県立高校の主権者教育を担当する教諭を集めた主権者教育推進リーダー研修会を実施した。主権者教育は、学校の教育課程の中で終始することが多いが、NPO法人ドットジェイピーさんの活動のように、高校生も教育課程外で活動していければ、より自分事として捉えることができると思う。

○ 渡邊氏（県生涯学習課）

生涯学習課としては、若い世代よりもっと上の世代の人たちとの関わりがあるが、親世代の投票率も下がっている状況で、啓発の方法を考えていく必要があると感じた。親子連れ投票については、PTAなどと連携すればより効果が期待できると考える。

○ 渡辺委員（県子ども家庭課）

子ども家庭課としては、青少年の健全育成という観点で、SNSの利用などについて周知啓発に努めている。親子連れ投票についても、選挙管理委員会と連携しながら周知啓発に取り組んでいきたい。

○ 岡田委員（東臼杵支会）

延岡市では、イオン延岡に期日前投票所を設置しているが、昨年度の衆院選において期日前投票所の設置期間が短いという意見があったため、今後検討していくと聞いている。

○ 黒木委員（児湯支会）

西米良村においては、投票日当日、防災無線を使用し、定時的に投票率を村内に報告しており、高い投票率を維持している。最近では兵庫県知事選などにおいて二馬力選挙の問題も生じたが、違法か適法かという以前にモラルの問題として報道等でも取り上げる必要があると思う。

○ 柿木原委員（都城・北諸県支会）

都城・北諸県支会は、自治公民館長を中心に活動している。都城市では、市独自の取組として、選挙啓発の4コマまんが作品を募集しており、例年独創的な作品を応募していただいている。

○ 八木委員（南那珂支会）

4月に行われた日南市長選の投票率も低かった。日南市においては、お笑い芸人が講師を務める出前授業「笑える！政治教育ショー」を実施した。群馬県では、49校、約9,800人の高校生を対象に実施し、18歳の投票率が向上したと聞いている。

○ 向井委員（宮崎・東諸県支会）

昨年9月に東諸県郡で県議補選が行われたが、投票率は約35%と非常に低く危機感を抱いている。参院選を前に、自治公民館長の意見を聞く機会を設け、啓発のあり方などについて考えていきたい。わけもんの主張については、役場職員に参加をお願いする状況もあると聞いており、実施方法の見直しが必要だと感じている。SNSを活用した若者向けの啓発も大切だが、SNSを利用しない世代に対しても効果的な啓発ができるようテレビのあり方も考えていく必要がある。

○ 末元氏（西諸県支会）

今年度は、昨年度から課題となっている支会長の選任を進めていく予定。参院選においては、昨年度の衆院選ではできなかった街頭啓発も行っていきたい。

○ 佐藤氏（西臼杵支会）

西臼杵3町の選挙管理委員会職員は他の業務と兼務をしており、常時啓発に取り組むことがあまりできていないが、中学校や高校の生徒会選挙の際に、投票箱等の貸出しを行っている。わけもんの主張でも政治を社会科の授業として学習する機会はあるもリアルな政治を学ぶ機会がないといった発表もあったため、これまでできていなかった出前授業の実施も検討していきたい。

○ NPO法人ドットジェイピー宮崎支部

熊本支部では、ドットジェイピーが高校などで出前授業をしているため、宮崎支部でも考えていきたい。南那珂支会長さんの意見にもあった「笑える！政治教育ショー」に実際に参加したこともあり、若いうちに面白い授業を経験することは大切だと感じた。

○ 成合委員長（県選挙管理委員会）

一般的に市部より郡部の投票率が高い傾向にあるが、国政選挙において本県の投票率が全国平均を下回る状況が続いていることの説明が難しく危機感を抱いている。かつては教育や家庭の中に、「政治」が身近にあったが、最近は「政治」の話をすることをタブー視するような傾向もある。SNSなど若い世代に届く方法での啓発を継続していくことが大切だと思う。

② 明るい選挙啓発ポスター・書道作品コンクール

小学生から高校生までの児童・生徒に明るい選挙を呼びかけるポスターや書を書い
てもらうことで政治や選挙について考えるきっかけとすること、入賞作品の展示によ
り、選挙の重要性について県民に広く訴えることを目的に実施しました。

○応募期間 令和7年5月12日（月）から9月8日（月）まで

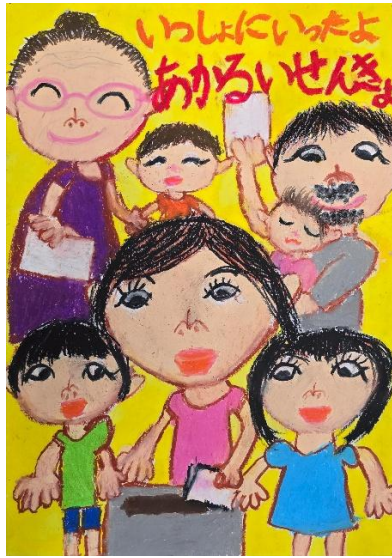
○応募総数 ポスター 小学校 328点、中学校 143点、高校 35点
書道 小学校 4,298点、中学校 1,706点、高校 372点

○入賞 ポスター 特選12点、金賞12点、銀賞11点、銅賞24点、佳作83点
書道 特選12点、金賞12点、銀賞12点、銅賞24点、佳作90点
※ ポスター入賞作品については、中央審査に提出
(小学校4点、中学校3点、高校4点)

○入賞作品展示 ポスター142点 書道150点
会場：イオンモール宮崎 1階 レストランコート
期間：令和7年10月1日（水）から10月5日（日）まで



令和7年度明るい選挙啓発ポスター作品（特選作品）



小1 宮崎市



小2 宮崎市



小3 国富町



小4 綾町



小5 宮崎市



小6 宮崎市

令和7年度明るい選挙啓発ポスター作品（特選作品）



中1 綾町



中2 国富町



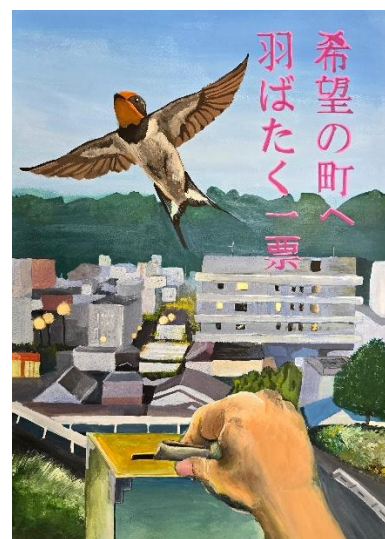
中3 高鍋町



高1 えびの市

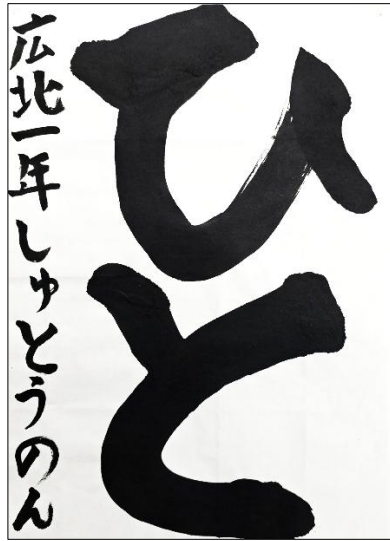


高2 宮崎市

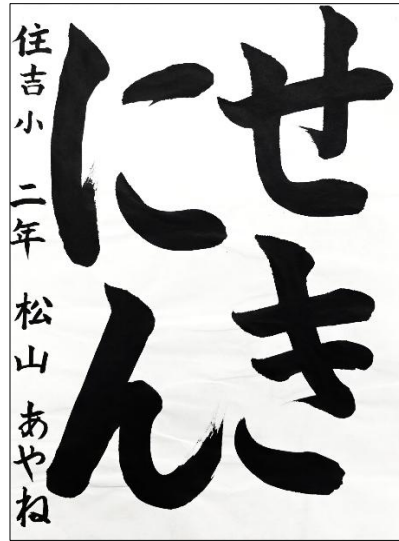


高3 西都市

令和7年度明るい選挙啓発書道作品（特選作品）



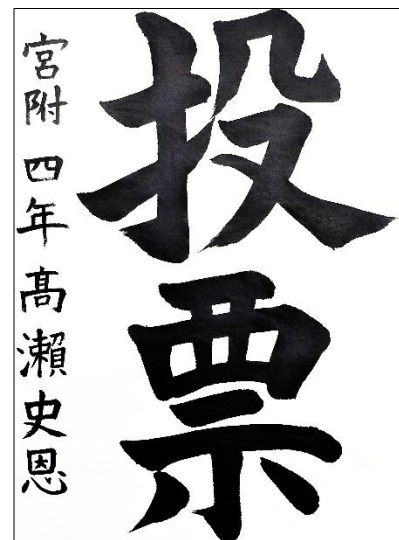
小1 宮崎市



小2 宮崎市



小3 宮崎市



小4 宮崎市

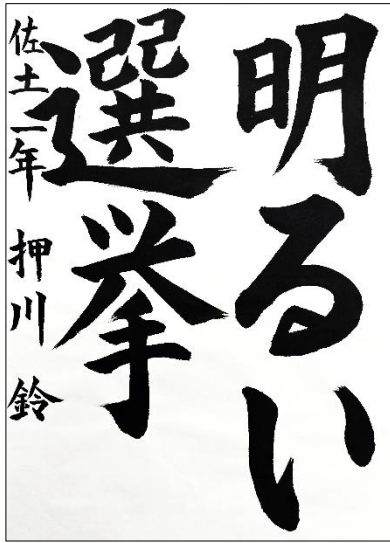


小5 宮崎市



小6 宮崎市

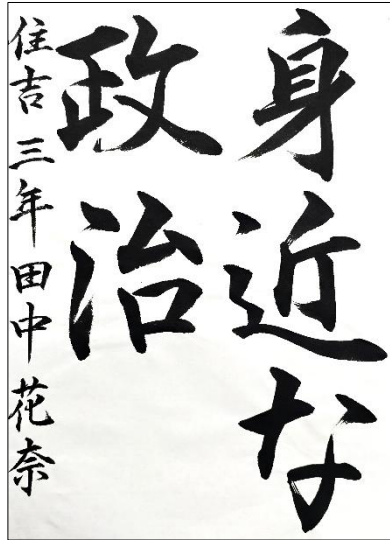
令和7年度明るい選挙啓発書道作品（特選作品）



中1 宮崎市



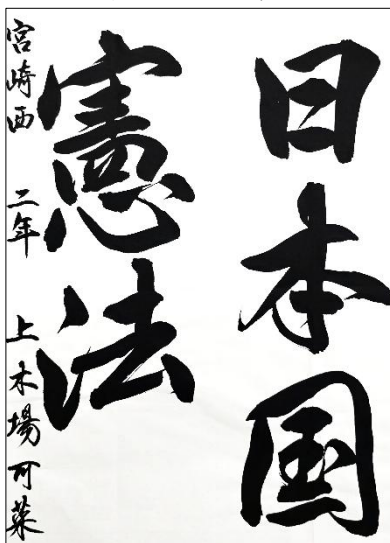
中2 宮崎市



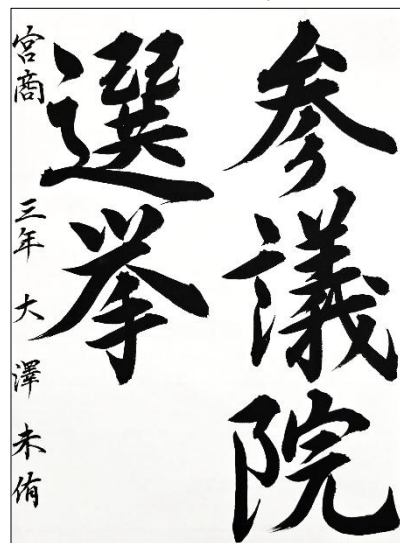
中3 宮崎市



高1 宮崎市



高2 宮崎市



高3 宮崎市

③ 政治と選挙を学ぶ「Voter's Seminar」 (ポーターズ・ゼミ)

勇志国際高等学校宮崎学習センターにおいて、地域課題に対する解決案の検討と選挙体験を組み合わせる形の選挙出前授業を実施しました。

○内 容

日	時間	内容
2月13日 (金)	13:00-13:50	①イントロダクション (授業の目的、選挙の種類や投票率の現状) ②グループワーク (自分たちが暮らす地域にはどんな課題があるか/ その課題を解決するためにはどんな取組が必要か) ※宮崎市総合計画を活用したまち課題等の探求
	14:00-14:50	③各グループの発表 ④投票の方法や注意点 ⑤投票 ⑥結果発表・ふりかえり

○参加者

勇志国際高等学校宮崎学習センター 2年生 20名



④ 明るい選挙啓発動画コンテスト

様々な視点や柔軟な発想により、視聴した若者が政治や選挙について考えるきっかけとなる動画作品を募集するコンテストを実施しました。

- テーマ 投票いいじゃん！～自分の声、届けに行こう！ ※15秒～30秒程度
- 対象 県内に在住又は通学している高校生以上の個人又はグループ
- 応募期間 令和7年7月1日（火）から10月31日（金）まで
- 応募総数 55作品
- 審査結果

【最優秀賞】 応募者：内田千雪（宮崎県立日南振徳高等学校）
タイトル：これからの日本のために



【優秀賞】 応募者：ゆゆとみゆき（一般応募）
タイトル：神と投票用紙（神）に願いを託そう！



【優秀賞】 応募者：BARI（一般応募）
タイトル：自分の声届けに行こう



【奨励賞】 応募者：優柔不断（宮崎マルチメディア専門学校）
タイトル：選挙に行こう！



⑤ わけもんの主張

若者が選挙や政治に対し、日頃考えていることや感じていること、求めていることについて意見発表することにより、有権者又は有権者になる者として政治や選挙に関する認識を深めてもらうとともに、県民の明るい選挙推進運動に対する意識の高揚を図ることを目的として、県内5地域（支会）で予選会を開催しました。

例年2月中旬に開催していた本選は、衆議院議員総選挙の管理執行に万全を期すため、やむなく中止しました。

○各支会の最優秀者

支会	氏名	所属・演題
宮崎・東諸県	大久保 凛乃	宮崎県立看護大学 「投票というケアのかたち」
南那珂	川崎 柚華	宮崎県立日南高等学校 「自分の手で幸せを」
都城・北諸県	荻 里音	宮崎県立都城西高等学校 「若者の意見を地域づくりにいかしたい」
西諸県	仲田 樹矢	小林市役所 「これからの政治と選挙について」
東臼杵	松木 麗音	美郷町役場 「検索1回で政治に届く町 美郷から探しやすいさを設計する」

※ 西臼杵支会は、衆議院議員総選挙対応のため予選会を中止しましたが、応募者の発表原稿を高千穂町（主催者事務局）ホームページに掲載しました。

投票というケアのかたち

大久保凜乃

私が暮らす宮崎県では、高齢化が進み、医療や介護の問題を耳にすることが多い。ニュースで「看護師不足」「病院の統合」といった言葉を目にするたびに、将来看護師を目指す私にとって、それは遠い話ではなく、自分の未来に直結した現実のように感じられる。十八歳で初めて投票した経験を経て迎えた二度目の選挙では、前回よりも自分なりに「どんな社会を望むか」を考えながら投票に向き合うことができた。政治は、現場で命を支える看護の仕事とも深く関わっているのだと改めて感じている。

大学の授業で、地域医療について学んだ時のことが印象に残っている。医療体制を整えるためには、看護師や医師の努力だけでなく、国や自治体の支援、つまり「政治の決定」が欠かせないという話だった。どんなに優れた医療技術があっても、政治や予算がなければ現場は動かない。看護を学ぶ中で、初めて政治の仕組みが「誰かの命を支える裏側」にあるのだと実感した。

私の祖父母が住む地域では、救急車の到着までに時間がかかる場所もある。高齢者が多い地域では、夜中に体調を崩しても「迷惑をかけたくない」と救急要請をためらう人もいう。こうした話を聞くたびに、医療の問題は単なる「病気」の問題ではなく、社会の仕組みそのものに関わることを感じる。看護師として人を支えるだけでなく、社会全体を「支える仕組み」を整えることが本当の意味での「ケア」なのかもしれないと思うようになった。

看護は、一人の患者さんに寄り添う仕事だが、選挙は社会全体に寄り添う行動だ。投票用紙に名前を書き、箱に入れた瞬間「自分もこの国のケアに関わっているのだ」と感じた。たとえ一票でも、誰かの暮らしを支える力になる。

若い世代は「政治に興味がない」と言われることがある。しかし、私たちが無関心である間にも、医療や福祉の制度は決まり、現場の環境が変わっていく。看護師不足の背景には、働く環境や給与の問題、夜勤の多さなど、政策が深く関わっている。そうした課題を変えていくには、現場の声を社会に伝える仕組みが必要である。もし政治が変われば、働く看護師の負担が減り、患者さんと向き合う時間を増やすことができるかもしれない。そう考えると、一票の重さは数字以上の意味を持っているように思える。

さらに、投票に行くだけで満足するのではなく、自分の経験や考えを周りに伝えることも大切だと思う。友人や家族と選挙や社会の課題について話すことで、政治や投票が身近な問題であることを知ってもらえる。私自身、初めて投票した時の戸惑いや二度目で感じた意識の変化を話すことで「若い世代の声も社会を変える力になる」ということを伝えら

れるかもしれない。例えば、SNSで自分が投票に行った経験や医療現場の課題について考えたことを共有することもできる。それにより、まだ投票に行ったことのない人たちが「自分も関わってみよう」と思うきっかけになるかもしれない。投票することは一人の行動だが、それを共有することは、より多くの人の意識を変え、地域や社会を支える力につながると感じている。

看護師として患者さんに寄り添うことと同じように、投票や政治参加も「人の生活や命に関わるケア」の一環だと考える。目の前の患者さんだけでなく、制度や政策の面から人々の暮らしを支えることも、広い意味での看護である。

看護を学ぶ私は、これから多くの人の命や生活に関わっていく。その中で、目の前の患者さんだけでなく、地域や社会の「健康」を守ることができる看護師になりたい。病気の治療だけでなく、制度や環境の面から人を支える視点を持ち続けたい。

選挙はその第一歩である。政治に関心を持つことは、他人事ではなく、誰かの苦しみを見過ごさないという意思表示でもある。

これからも私は、看護を通して人の心と体を支え、政治を通して社会全体を支えていきたい。看護と政治は一見違うようでも、どちらも「人を支える」という点では同じだ。自分の手で誰かをケアするように、自分の一票で社会をケアしていく。そんな看護師になれるよう、これからも考え、行動していきたい。

自分の手で幸せを

川崎柚華

私はこれまで政治について深く考えたことはほとんどありませんでした。正直に言えば、「政治」と聞くと難しくて堅苦しいものという印象が強く、自分の生活とは遠い世界の話だと感じていたからです。しかし、今年7月20日に執行された参議院議員選挙をきっかけに、その考えが少しずつ変わり始めました。

選挙期間中は、学校でも友達との会話や、家族との食卓での話題に参議院選挙がよくあがりました。今までは大人たちが選挙の話をしていても自分には関係がないと思って聞き流していましたが、今回の選挙では自然と耳を傾けるようになりました。周囲の人が「どの政党がどういうことを言っているか」「もし今投票できるなら誰に投票するか迷いそう」と話しているのを聞くうちに、私自身も政治に興味を持つようになったのです。

私はまだ18歳になっていないため、実際に投票所へ行って票を投じることはできません。それでも、より身近に政治を感じてみたいと思い、実際に立候補者の公演演説会に家族と足を運んでみました。演説会では、候補者が地域の課題や将来の政策について熱心に語っており、テレビやSNSで見る断片的な情報とは違って、候補者の考えや人柄が直接伝わってきました。演説会に参加したことで、「政治は難しい」という印象が少しずつ薄れ、「自分の生活に直結している大切なものなのだ」と実感することができました。これはとても貴重な経験だったと思います。

今回の参議院選挙では、ニュースでも取り上げられていたように、若者の投票率が前回より上がったそうです。その背景の一つにはSNSの存在があるといわれています。実際、私自身もInstagramやTikTokで選挙に関する投稿や「選挙に行こう」という呼びかけの動画をよく目にしました。SNSは若者が普段からよく利用するものであり、そこで選挙についての情報が流れてくることで、「選挙が自分にも関係あることなんだ」と気づくきっかけになった人は多いと思います。

一方で、SNSで見かけた投稿の中には「とにかく〇〇党に入れとけばいい」といった、極端で単純な意見も少なくありませんでした。中にはそれを鵜呑みにしてしまい、本当に深く考えないまま投票先を決めた人もいたのではないかと思います。確かに、SNSは情報を得やすい便利な場ですが、同時に偏った意見や根拠の薄い情報も簡単に広がってしまいます。政治は自分の将来や生活に直接関わるものです。それを誰かの一方的な意見に流されて決めてしまうことは、本当に良いのだろうか疑問に思いました。

だからこそ、SNSで興味を持つことを第一歩とした上で、次に大切なのは「自分の目で確かめること」だと感じます。候補者の演説を直接聞いてみたり、公式な資料を読んだりすることによって、自分なりに判断できる力を身につける必要があります。私自身も演説会

に参加したことで、SNSやニュースで得た印象と実際に見聞きした内容が違うことに気づきました。やはり自分の足で動くことが大切なのだと思います。

また、政治や選挙について正しい知識を身につけるためには、学校教育の中でもっと学ぶ機会が必要ではないかと考えます。たとえば、各政党が掲げる政策や活動の特徴を学んだり、模擬選挙を行って実際に投票の流れを体験したりすれば、SNSの偏った情報に流されにくくなると思います。そうすることで、自分が本当に望む生活に近づくための一票を投じることができるのではないのでしょうか。

私はまだ投票権を持っていませんが、今回の選挙を通じて「政治は自分には関係ないことではない」と強く感じました。これから18歳になり実際に投票できるようになったときには、周囲やSNSに流されるのではなく、自分で調べ、考え、納得のいく一票を投じたいと思います。そして、私と同じように「政治は難しそう」と感じている若い世代の人たちにも、まずは一度演説会に行ったり、選挙に関する正しい情報に触れたりしてほしいです。そうすれば、若者の政治参加はもっと広がり、日本の未来を自分たちの手でつくってけるのではないかと思います。

若者の意見を地域づくりにかしたい

萩 里音

「若者の投票率が低い。」

この言葉を聞くたびに、このままでは将来大丈夫なのかなと不安な気持ちになります。少子高齢化が進み、若い世代の意見がもっと政治に反映されるように、選挙権年齢が引き下げられました。しかし、投票率はのびていません。期日前投票の利用の促進、SNSの活用などいろいろな工夫はされていますが、未

来を担う若い世代の意見が政治に届きにくくなっています。

私は、有権者になったら、選挙に行きたいと思っています。それは、自分の未来のためや子どものために、よりよい社会をつくる一員になりたいからです。ですが、絶対に行くとは言いません。なぜなら、政治のしくみや誰がどのような政策をしているのか、政治に関して全く知識がありません。友達と選挙の話をしてても、誰が何をしているのかが

らない、投票して何が変わるのかなど、政治
に關してあまり興味がない人が多いように感
じます。このように感じるのは、若者に公約
が届いていないことや、投票する意味や家
が分かっていないからだと思います。大人は
若者に「選挙に行こう」と呼びかけをしてい
ますが、政治のしくみやどこに注目して選
ぶとよいか本質的なことを教えてくれる人は
ほとんどいません。なので、主権者教育を充
実させ、小、中学生の頃から選挙のしくみや

社会問題について学び、一人ひとりが社会の
一員だということを実感できるように教育を
すべきです。

私は、高校生の声を地域づくりに活かすと
いうテーマで探究活動を行っています。その
一環として、いろいろなアイデアや思いが集ま
る都城万博を開催しました。一回目は市内の
高校の生徒会役員、市議会議員さんが集まり、
自分の高校の未来、都城の未来についてプレゼン
テーションしました。その後、グループをつくり高

校生と議員さんで、意見交換会をしました。

「都城をもっとこうしたい」「バスの本数を増やしてほしい」「遊び場所や勉強できる場所がほしい」など高校生の視点でいろいろな意見がでました。意見交換のあと、議員さんから

「私たちが気づいていない高校生の視点や地域の不便さを教えてもらえて、とても参考になりました。」

と言っていたいただきました。そして先日、二回

目の都城万博を南九州大学で行いました。高校生に加えて、大学生、中学生も参加し、より多くの人と未来に向けて考えを交換しました。この都城万博を通して、議員さんとの信頼関係や、政治に対する興味も高まり、議員さんと若者が一緒になって主体的に地域を良くしていかうと取り組んでいくことは、これからの私たちにあって大事なことだと思います。市議会議員の方だけでなく、県議会議員、国会議員の方々との交流も増やして

けば、もって選挙というものが身近に感じる
ことができると思っています。

また、私は選挙啓発ボランティアにも参加
しました。イオンの前でチラシやティッシュ
を配りながら、
「投票おねがいします。」

と呼びかけました。笑顔で
「ありがとうございます。投票してまたよ。」

と言ってくれる人もいれば、無視される
ことも多かったです。若い人達に無視される

ことが多く、若者が政治に興味をもていな
い傾向があることを肌で感じました。一人で
も多くの人に選挙に行ってもらいたいと思っ
一人ひとりに声をかけ続けました。

若者がこうして地域の課題に関わり、自分
から行動することによって、少しずつ社会を変える
やになると感じます。全ての若者が選挙に興
味がないうわけではありません。地域を
もって良くしたい、日本をもっと住みやすい
国にしたい、と思っている人はたくさんいる

と思います。一人ひとりの長くしたいていという
気持ちが集まればすごく大きなものとなり、
日本は変わっていきけると思います。未来の自
分たち、子どもたちのために住みやすい場所
に進化していくことを願っています。

私はこれから、地域の一員として自分の
考えを発信し続けたいと思います。若者の声
が地域に届き、誰もが住みやすいまちをつく
ることができるよう、行動を続けていきた
いです。

これからの政治と選挙について

小林市代表 仲田 樹矢

近頃のニュースで「若者の政治離れ」という言葉をよく耳にする。選挙のたびに、二十代の投票率の低さがニュースになり、有識者がテレビでその理由を分析している。しかし、当事者である私たちの世代からすれば、「離れている」のは果たして若者の方なのだろうか、という疑問が常に付きまとう。むしろ、政治という巨大なシステムが、私たちの日常から遠ざかり、触れがたい場所へ行ってしまったように感じられるのが本音ではないだろうか。

今の政治や選挙について、自分が一番感じることは、身近ではないものへの近寄りがたさだと非常に感じます。なぜそう思ったのか、..

私が初めて選挙に行ったのは、2024年10月27日に行われた衆議院議員選挙でした。その時は、高校3年生になり、誕生日が10月28日だったため、誕生日を迎える前に選挙に行きました。その時の会場は、厳かな大人に囲まれ、鉛筆を握る手が震えそうなほど緊張しました。その時私は、パーカーのテニス着を着ていったのですが、こんな服で行っていいのかなんてことも考えました。そんな経験もあり、私の一番の印象は物理的にも心理的にも「怖くて面倒なもの」でした。

また、若者が政治に対して抱く感情の根底にあるのは、おそらく「無力感」と「諦め」でしょう。学歴詐称や、裏金問題などがニュースで報道されてもなお、同じ人が政権を握る。選挙期間になれば気持ちの良い言葉を並べてはできませんでしたの繰り返し。そのたびに、「政治は自分たちの生活を良くしてくれるものではなく、特権階級のパワーゲームだ」という冷めた見方が、私たちの世代に浸透してしまっています。

しかし、その一方で、私たちは決して政治に対して無関心なわけではありません。むしろ、今の社会が抱える歪みに対しては、どの世代よりも敏感でしょう。SNSを通じて、地球規模の環境問題や、ジェンダー平等、格差社会の不条理を日常的に目にしている。クラウドファンディングで共感するプロジェクトを支援したり、署名活動に参加したりすることは、今の若者にとってごく自然な「意思表示」です。つまり、私たちは「社会を良くしたい」という意欲は持っています。ただ、その出口が「選挙」への投票という形になっていないだけなのです。

では、これからの政治と選挙はどうあるべきか。まず求められるのは、政治と私たちの日常との「翻訳」でしょう。難しい法律用語や、感情的な批判の応酬ではなく、今の政策が十年後、二十年後の私たちの給与や住環境、あるいは子育ての環境にどう影響するのかを、具体的かつ誠実に示すプロセスが必要です。インターネット投票の導入といった技術的な利便

性向上も重要ですが、それ以上に、「自分の声が反映された」という小さな成功体験の積み重ねが不可欠である。

例えば、地域の身近な問題、公園の活用方法や通学路の安全性、奨学金制度の改善などについて、若者の意見が反映され、実際に街が変わる様子を目の当たりにできれば、政治は「他人事」から「自分事」へと変わるはずだ。政治家には、若者を「票の数」として見るのではなく、未来を共に作る「対等なパートナー」として対話する姿勢を持ってほしい。若者向けに分かりやすく政策を伝える工夫や、SNSを活用した双方向のコミュニケーションは、もはや政治の根幹であるべきだ。

そして、私たち若者の側も、意識を変えていく必要がある。一票の重さを「自分の利益のためだけ」と考えると、確かにその価値は小さく見えるかもしれない。しかし、その一票は、私たちがどのような社会に住みたいかという「意志」の表明である。投票に行かないということは、自分の未来の決定権を、自分とは価値観の異なる誰かに委任してしまうことと同じです。今の政治に不満があるのなら、どれだけ面倒くさくても、外に出たくなくても、その不満を「Youtube やインスタのコメント欄」に書くのではなく「数字」として示さなければならないんです。

確かに、一年や二年で社会が劇的に変わることはないと思います。それでも、私たちが選挙に足を運び、自らの意思を投げ続けることで、政治家たちの視線は少しずつ、次の世代へと向いていきます。若者の投票率が上がるという事実そのものが、政治に対する強力なプレッシャーとなり、無視できない力となります。

十年後の日本が、今より少しでも風通しがよく、多様な生き方が認められる社会であるために。私は、次の選挙でも一票を投じます。それは、見えない未来を自分たちの手で、より良くする最初の一歩であると信じているからです。私たちの世代が、冷笑を捨てて誠実に政治と向き合い始めたとき、これからの日本の政治と選挙は本当の意味で新しい形に進化するのではないのでしょうか。

最後に一言、行ったことある人ならわかりますが、以外と投票は1, 2分程度で終わります。Z世代が好きなMBTI性格診断より早いです。だからみんなまずは投票に行こう。ちなみにわたしはENFPです。

検索 1 回で政治に届く町 美郷から探しやすさを設計する

美郷町 松木 麗音

皆さんは、政治の情報を探るとき、何回クリックしますか？

私は美郷町企画情報課で、商工業振興や事業承継支援に携わってきました。現場で学んだことは、情報は 1 つに集約されて、はじめて行動に変わるということです。

美郷町では、事業承継に特化した「みさとバトン」を立ち上げ、移住定住と事業承継の情報を結びつけました。美郷で住んで働く選択肢として事業承継があることを一目で分かるようにした結果、令和 3 年に 3 件の承継が成立しました。

外から来る人にも町内の事業者にも、見つけやすさが背中を押します。この経験は、政治の情報発信にもそのまま当てはまると考えています。

では、今の政治情報は見つけやすいでしょうか？

多くの自治体で PDF 中心の発信がされ、スマホでは要点が拾いにくい状態です。どこに何があるのかがわからず「次の一手」が隣にないので、せっかく関心を示しても、行動に移る前に離れてしまいます。

つまり、無関心だから離れるのではなく、欲しい情報に届く前に離脱しているのです。

前大会の発表でも、若者は候補者情報を集める行為そのものに負荷を感じていると指摘されていました。ならば課題は明確です。探しやすい政治に設計を変えれば良いのです。

私は行政の実務から、次の 3 点を提案します。

第 1 に、政治と選挙の案内を 1 つに集約することです。

HP に入口を作り、議会情報、選挙公報、投票情報、請願・陳情・傍聴の案内を、迷わずたどれる並びで置きます。

PDF での公開は残しつつ、その手前に短い要約を置き、要点を先に伝えます。

見出しは専門用語を避け、「空き店舗」「通学路の安全」などの暮らしの言葉で

表現します。

第2に、議会情報を「読み切れる形」に直すことです。

現状、質問と回答を交互に羅列していますが、全て読むには時間がかかり、専門用語が出てくると理解が難しくなります。

改善案として、各一般質問の冒頭に3行程度の要約を固定し、主題、現状、次の一手を明確にします。本文は何が議論され、暮らしに何がどう影響するのかを順番に示します。事業名の列挙で終わらせず、説明ページや申請窓口への直通リンクを見出しの近くに配置します。

読み手が求めているのは全部を理解することではありません。暮らしに影響する必要な情報を、速く、確実に受け取ることです。

第3に、比較と体験を前提にすることです。

選挙の時期には、選挙公報を必ず正規の掲載先に誘導し、誤解を防ぎます。

併せて、政策を比較できる診断ツールの使い方を案内し、数分で自分の関心と各候補の違いを確かめる体験を用意します。

誰かに言われたからではなく、自分で確かめたという実感が参加の動機になるからです。

これらは特定の政党や候補者を支持するものではありません。

行政の中立性を守りながら、政治への到達コストを徹底的に下げたための実務の提案です。

私は現場で見してきました。情報を1つにまとめ、整理すれば、人は自然と次の行動に進みます。政治も同じです。

入口が整えば若者は来ます。無関心が問題なのではありません。無関心に見えてしまう設計が問題なのです。

検索1回で政治に届く。

その仕組みを整えることが、若者の一票を生み出す第一歩だと、私は考えます。

(2) 研修事業

① 若者リーダーフォーラム（九州ブロック）

近年の若年層の投票率の低下傾向を踏まえ、政治や選挙の大切さを認識してもらうとともに、参加者を通じた若年層への呼びかけや、明るい選挙推進運動への参画を目的とする。

- 開催場所 佐賀県佐賀市（サンシティ）
- 開催日 令和7年5月17日（土）
- 参加者 2名（学生1名、事務局1名）
- 研修内容

- ・講演「若者と政治を考える」

読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局記者 総務省主権者教育アドバイザー 渡辺 嘉久

- ・講演、ワーク「選挙体験シミュレーションをしてみよう！」

（一社）WONDEREDUCATION代表理事 総務省主権者教育アドバイザー 越智 大貴

- ・グループ討議「参院選への投票参加の呼びかけを考えよう」

② 明るい選挙リーダーフォーラム（九州ブロック）

九州各県の明推協会長等が一堂に集まり、各県の明推協活動の状況や問題点等を論議し、連携の強化や明推協活動の活性化を図ることを目的とする。

- 開催場所 熊本県熊本市（熊本城ホール）
- 開催日 令和7年12月15日（月）
- 参加者 2名（明推協会長、事務局1名）
- 研修内容（討議テーマ）

- (1) SNSを活用した啓発事業について
- (2) 選挙時の街頭啓発関係について
- (3) 高等学校における出前授業の実施について
- (4) 高校生と協働して行う選挙啓発（事務）について

- (5) 学生団体の啓発活動について
- (6) 市町村の明推協の活動状況と活性化に向けた対応について
- (7) 明るい選挙ポスターコンクールの審査基準について
- (8) 第27回参議院議員通常選挙の投票率について（意見交換）

③ 地域コミュニティフォーラム（九州ブロック）

近年の投票率の低下傾向を踏まえ、特に若年層を対象とした啓発手法等を検討するとともに、選挙啓発活動全般の活性化を図ることを目的とする。

- 開催場所 長崎県長崎市（出島メッセ長崎）
- 開催日 令和7年10月21日（火）
- 参加者 なし

④ 九州各県選挙管理委員会職員選挙事務・選挙啓発研究協議会

九州各県の担当職員による選挙事務・選挙啓発に関する協議と情報共有を行うことを目的とする。

- 開催場所 沖縄県那覇市（八汐荘）
- 開催日 令和7年11月4日（火）
- 参加者 2名（事務局2名）
- 研修内容（討議テーマ）
 - (1) 電子投票導入の検討状況について
 - (2) ポスター掲示場の設置場所のマップ表示について
 - (3) 投票用紙輸送時の県選管職員の立会について
 - (4) 点字による名簿届出政党等名簿の作成について
 - (5) 比例代表選出議員選挙の氏名等掲示について
 - (6) 投票所の記載台にボールペンを設置することについて

- (7) 選挙公報の配布方法等について
- (8) 第27回参議院議員通常選挙における速報事務について
- (9) 第27回参議院議員通常選挙における報道機関への開票所別開票速報データの提供方法について
- (10) 不在者投票事務経費に関する投票者の確認について
- (11) 第27回参議院議員通常選挙における臨時啓発について
- (12) 第27回参議院議員通常選挙のための点字パンフレット及び音声CDの配布について
- (13) 県議補選における選挙啓発の実施方法等について
- (14) 若年層の社会人に向けた常時啓発について
- (15) 業務委託により実施している常時啓発事業について
- (16) 地方議会による主権者教育の推進に関する取組み
- (17) 選挙時における政治資金規正法関係窓口業務の負担軽減について
- (18) 選挙制度や事務等に関する問い合わせへの対応方法について
- (19) 立候補届出の際の住民基本台帳の利用について

⑤ 代表者会議・全国フォーラム

代表者会議において、これまでの明推協の取組と今後の啓発事業の展開について検討するとともに、全国フォーラムにおいて、各団体の取組を通じて常時啓発事業についての研鑽を深めることを目的とする。

○開催場所 東京都千代田区（ホテルルポール麹町）

○開催日時 令和8年3月3日（火）

○参加者 2名（明推協会長、事務局1名）

○研修内容

- ・優良活動表彰受賞団体による活動報告
- ・講演「今後の政治情勢について」 NHK解説委員 伊藤 雅之
- ・意見交換「情報リテラシーを高めるには」

3 その他の取組

① 選挙出前授業の実施

選挙の意義や仕組み、投票の方法等に関する出前授業を県内の学校等で実施。

○実施団体数 47団体

【内訳】	小学校	中学校	高校	支援学校	大学・ 専門学校	その他	合計
県		1	5			3	9
宮崎市	1		4				5
都城市	1	5	2	1	2	4	15
延岡市				2			2
小林市		1					1
日向市				1			1
高鍋町						1	1
新富町	3	3					6
川南町	5	1					6
都農町		1					1
計	10	12	11	4	2	8	47

(令和7年度選挙出前授業実施状況)

実施者	学校等名	対象者 (学年等)	対象人数	実施時期	時間(分)	内容	備考
県	女性大学あすなろセミナー (JAみやざき児湯地区本部)	一般	10	R7.5.21	60分	講義	
	都城商業高等学校	3年生	160	R7.6.5	50分	講義・模擬選挙	
	日南振徳高等学校	1～3年生	450	R7.7.11	50分	講義・模擬選挙	
	セミナー申込者	教員等	20	R7.8.6	120分	講義	男女共同参画センター共催
	セミナー申込者	高校生・大学生	40	R7.8.7	105分	講義・模擬選挙	男女共同参画センター共催
	都農中学校	1～3年生	220	R7.8.29	45分	講義・模擬選挙	
	宮崎工業高等学校	2年生	40	R7.9.3	50分	講義・模擬選挙	
	鵬翔高等学校	2年生	5	R7.12.3	45分	意見交換	
	勇志国際高等学校	2年生	20	R8.2.13	100分	講義・グループワーク・模擬選挙	ポーターズ・ゼミ
宮崎市	宮崎商業高等学校	3年生	264	R7.6.4	45分	講義・模擬投票	宮崎公立大学選挙啓発部 ライツと共同開催
	日章学園高等学校	全学年	1,370	R7.9.25	25分	講義	
	宮崎東高等学校	全学年	190	R7.11.4	20分	講義	
	宮崎農業高等学校	1年生	184	R7.11.11	60分	講義・模擬投票	宮崎税務署との合同
	木花小学校	6年生	82	R7.11.30	45分	講義・模擬投票	
都城市	大淀開発株式会社	10代、20代	7	R7.4.3	30分	講義	
	南日本酪農協同株式会社	10代、20代	21	R7.4.4	60分	講義	
	JA宮崎 都城地区本部	10代～30代	14	R7.4.18	60分	講義	
	都城リハビリテーション学院	10代	32	R7.5.28	90分	講義	
	櫻美学園高等学校	3年生	227	R7.7.9	60分	講義	
	祝吉中学校	3年生	181	R7.8.29	90分	講義・模擬選挙	
	庄内中学校	1～3年生	211	R7.9.4	50分	講義	
	きりしま支援学校 (高等部)	3年生	37	R7.9.16	50分	講義・模擬選挙	
	高城高等学校	1～3年生	233	R7.9.18	50分	講義	
	株式会社サニー・シーリング	10代、20代	7	R7.10.27	15分	講義	
	高崎中学校	3年生	60	R7.11.20	50分	講義	
	都城工業高等専門学校	1年生	160	R7.12.17	50分	講義	
	沖水中学校	1～3年生	412	R8.3.9	50分	講義	
	笛水小中学校 (小学部)	6年生	1	R8.3.13	45分	講義	
笛水小中学校 (中学部)	1～3年生	7	R8.3.13	45分	講義		
延岡市	延岡しろやま支援学校 (中等部)	全学年	37	R8.1.19	10分	講義	
	延岡しろやま支援学校 (高等部)	全学年	116	R8.1.19	10分	講義	
小林市	細野中学校	1年生	36	R7.11.20	50分	講義・投票体験	
日向市	日向ひまわり支援学校	全学年	100	R7.11.10	60分	模擬選挙	
高鍋町	JAみやざき児湯地区本部	女性部	20	R7.5.23	40分	講義	
新富町	新田学園 (小学部)	6年生	33	R7.5.13	45分	講義・模擬選挙	
	上新田学園 (小学部)	5、6年生	45	R7.5.28	45分	講義・模擬選挙	
	富田小学校	6年生	117	R7.6.11	45分	講義・模擬選挙	
	新田学園 (中学部)	2年生	39	R7.8.5	45分	講義・模擬選挙	
	富田中学校	2年生	110	R7.9.10	45分	講義・模擬選挙	
	上新田学園 (中学部)	2年生	26	R7.11.20	140分	講義・模擬選挙	
川南町	通山小学校	全学年	157	R7.11.20	40分	模擬投票	6年生に授業を実施 (2コマ)
	山本小学校	全学年	80	R7.11.21	40分	模擬投票	6年生に授業を実施 (2コマ)
	唐瀬原中学校	3年生	91	R7.11.26	50分	講義・模擬投票	
	川南小学校	全学年	317	R7.12.2	40分	模擬投票	6年生に授業を実施 (2コマ)
	東小学校	全学年	97	R7.12.3	40分	模擬投票	6年生に授業を実施 (2コマ)
	多賀小学校	全学年	46	R7.12.9	40分	模擬投票	6年生に授業を実施 (2コマ)
都農町	都農中学校	全学年	223	R7.8.29	60分	講義	
合計			6,355				

② 学校関係者への説明

各学校における主権者教育の充実に向け、宮崎県教育委員会等が主催する会議等の場において、選挙啓発の取組等について説明。

- 主権者教育推進リーダー研修会
 - ・ 開催日時 令和7年5月12日（月）
 - ・ 開催場所 ひなたサンマリスタジアム宮崎 会議室
 - ・ 対象 各県立学校の教員等

③ 総務省主催「主権者教育キャラバン」への協力・参加

総務省と連携の上、会場調整や参加案内・取りまとめ等を実施。当日は、県選挙管理委員会委員長及び明るい選挙県推進協議会会長をはじめとして県・市町村職員60名が一堂に会し、主権者教育に係るそれぞれの役割や連携について検討。

- ・ 開催日時 令和8年1月8日（木）
- ・ 開催場所 県企業局庁舎1階 県電ホール
- ・ 対象 県・市町村の選挙管理委員会、議会事務局、教育委員会事務局の職員
- ・ 主な内容 総務省主権者教育アドバイザーによる講演、グループワーク

④ 住民票異動に関するチラシの配布

大学生等が住民票異動の手続を行っておらず、現在住んでいる住所地で投票できなかったという実態を踏まえて総務省が作成した「住民票異動に関するチラシ」を各学校・大学等に配布。



II 臨時（選挙時）啓発の取組

参議院議員通常選挙

令和7年7月20日に執行された参議院議員通常選挙において、投票を呼びかける数々の啓発活動を行った。

○事業の概要

事業の種類	事業の内容	実施時期	実施場所等
白バラ贈呈	候補者に白バラと要望書を手渡し、明るくきれいな選挙を呼びかける。	7月3日(木) ※公示日	県庁本館 講堂（立候補届出受付会場）
懸垂幕の掲出	県庁舎等に懸垂幕を掲出し、明るくきれいな選挙の啓発と投票日の周知を行う。	選挙期間中	本庁舎・出先庁舎（8箇所）・宮崎山形屋
街頭啓発	学生選挙サポーター、みやざき犬、地元スポーツチーム等により各種商業施設にて啓発資材の配布、投票の呼びかけを行う。	選挙期間中	宮崎駅前、イオン延岡SC、イオン都城SC、ハロウ広島通前、宮崎山形屋前、イオンモール宮崎
テレビ・ラジオによる広報宣伝	テレビ・ラジオを通じて、投票日等の周知、きれいな選挙の啓発と投票参加を呼びかける。	選挙期間中	テレビスポット（15秒CM） MRT…60本 UMK…70本 ラジオスポット（20秒CM） MRT…40本 FM宮崎…40本
新聞広告による広報宣伝	新聞広告を活用し、きれいな選挙の啓発と投票参加を呼びかける。	7月13日(日)	「県政けいじばん」掲載（新聞5紙）
啓発資材の作成、配布	啓発資材を作成し、県及び市町村選挙管理委員会を通じて有権者に配布する。	選挙期間中	A2ポスター 1,600枚 A4チラシ 25,000枚 ポケットティッシュ 10,000個 円形うちわ 10,000枚 卓上ポップ 300個
インターネットによる啓発	Tver、YouTube、LINE等による情報発信、県選挙管理委員会のホームページを活用し、投票参加を呼びかける。	選挙期間中	県選挙管理委員会ホームページ https://www.pref.miyazaki.lg.jp/senkyo/
校内放送CDの作成、配付	学生選挙サポーターによる呼びかけをCDに収録し、県内高等学校へ配布する。	選挙期間中	県内高等学校53校
その他各種啓発	テレビ、ラジオ番組等各種広告媒体の利用、啓発資材の活用など、様々な場所、手段を利用した効果的な啓発活動を実施する。	選挙期間中	MRTテレビ「Check!」 UMKテレビ「NewSmile」「4時どき」 MRTラジオ「GO!GO!ワイド」 FM宮崎「耳が恋した」「ら・ら・ラジオ」 「Hybrid Morning」

○キャッチフレーズ：「自分の声、届けに行こう。」

自分の声、
届けに行こう。

投票日 **7/20日**

投票時間 | 午前7時から午後8時まで [一部投票所を除く]

第27回 **参議院議員通常選挙**

期日前投票 **7/4(金) > 7/19(土)**

選挙情報配信中

【投票時間】午前8時30分から午後8時まで(一部期日前投票所を除く)

宮崎県選挙管理委員会 市町村選挙管理委員会 明るい選挙宮崎県推進協議会 市町村明るい選挙推進協議会

○商業施設等における街頭啓発

① 日程・場所

令和7年	7月	4日(金)	宮崎駅前
	7月	5日(土)	ハロウ広島通
	7月	6日(日)	イオン延岡SC
	7月	12日(土)	イオンモール宮崎
	7月	13日(日)	イオン都城SC
	7月	18日(金)	宮崎山形屋前
	7月	19日(土)	宮崎駅前



- ② 参加者
 宮崎公立大学選挙啓発部「ライツ」
 テゲバジャーロ宮崎
 ヴィアマテラス宮崎
 みやざき犬「むうちゃん」「かあくん」
 県選挙管理委員会職員



- ③ 配布資材
 チラシ、ポケットティッシュ、円形うちわ

○テレビ、ラジオ等による広報宣伝

- ① テレビスポットCM放送
 7月3日から7月20日（投票日）までの18日間
 MRT 宮崎放送 15秒CM…60本
 UMK テレビ宮崎 15秒CM…70本
- ② ラジオスポット放送
 7月3日から7月20日（投票日）までの18日間
 MRT 宮崎放送 20秒CM…40本
 FM 宮崎 20秒CM…40本
- ③ テレビ・ラジオ番組等
 MRT テレビ「Check!」
 UMK テレビ「NewSmile」「4時どき」
 MRT ラジオ「GO!GO!ワイド」
 FM 宮崎 「耳が恋した」「ら・ら・ラジオ」「Hybrid Morning」
- ④ 街頭ビジョン等放送
- ・宮崎駅前ビジョン（宮崎 AMU VISION）
 （7月8日から7月19日の12日間）
 - ・一番街ビジョン
 （7月8日から7月19日の12日間）
 - ・宮崎大学 MIYAZAKI DISPLAY
 （7月8日から7月18日の11日間）※土日祝を除く
 - ・イオンモール宮崎 デジタルサイネージ
 （7月9日から7月20日の12日間）



宮崎県議会串間市選出議員補欠選挙

令和8年9月28日執行（無投票）の宮崎県議会串間市選出議員補欠選挙において、投票を呼びかける啓発活動を行った。

○事業の概要

事業の種類	事業の内容	実施時期	実施場所等
白バラ贈呈	候補者に白バラと要望書を手渡し、明るくきれいな選挙を呼びかける。	9月19日(金) ※告示日	串間市役所1階A会議室 (立候補届出受付会場) ※串間市職員が協力(県選挙管理委員会書記に併任)
懸垂幕の作成	明るくきれいな選挙の啓発と投票日の周知を行うため、懸垂幕を作成する。	—	串間市役所、県串間土木事務所に掲出予定だったが、無投票のため掲出せず
啓発資材の作成、配布	串間市長選の啓発も兼ねた資材を作成し、県及び市選挙管理委員会を通じて有権者に配布する。	選挙期間中	A2ポスター 25枚 A4チラシ 2,100枚 ポケットティッシュ 300個
インターネットによる啓発	YouTubeによる情報発信、県選挙管理委員会のホームページを活用し、投票総参加を呼びかける。	9月19日(金) ※告示日	YouTube 表示回数：375回

○キャッチフレーズ：「行こう選挙！語ろう宮崎の未来！」

行こう選挙！語ろう宮崎の未来！

投票日
令和7年
9.28日

宮崎県議会串間市選出議員補欠選挙
串間市長選挙

投票日に予定がある方は
期日前投票をご利用ください。

選挙に関する
情報を発信中！
宮崎県のHPは
こちらからアクセス▼

宮崎県選挙管理委員会 串間市選挙管理委員会

衆議院議員総選挙

令和8年2月8日に執行された衆議院議員総選挙において、投票を呼びかける数々の啓発活動を行った。

○事業の概要

事業の種類	事業の内容	実施時期	実施場所等
白バラ贈呈	候補者に白バラと要望書を手渡し、明るくきれいな選挙を呼びかける。	1月27日(火) ※公示日	県庁5号館(立候補届出受付会場)
懸垂幕の掲出	県庁舎等に懸垂幕を掲出し、明るくきれいな選挙の啓発と投票日の周知を行う。	選挙期間中	本庁舎・出先庁舎(8箇所)
街頭啓発	学生選挙サポーター、みやざき犬等により各種商業施設にて啓発資材の配布、投票の呼びかけを行う。	選挙期間中	宮崎駅前、イオン延岡SC、イオン都城SC、宮崎山形屋前、イオンモール宮崎
テレビ・ラジオによる広報宣伝	テレビ・ラジオを通じて、投票日等の周知、きれいな選挙の啓発と投票参加を呼びかける。	選挙期間中	テレビスポット(15秒CM) MRT…50本 UMK…60本 ラジオスポット(20秒CM) MRT…40本 FM宮崎…40本
新聞広告による広報宣伝	新聞広告を活用し、きれいな選挙の啓発と投票参加を呼びかける。	2月8日(日)	「県政けいじばん」掲載(新聞5紙)
啓発資材の作成、配布	啓発資材を作成し、県及び市町村選挙管理委員会を通じて有権者に配布する。	選挙期間中	A2ポスター 1,500枚 A4チラシ 25,000枚 ポケットティッシュ 13,000個 不織布マスク 13,000枚 卓上ポップ 300個 割り箸袋 10,000膳
インターネットによる啓発	Tver、YouTube、LINE等による情報発信、県選挙管理委員会のホームページを活用し、投票参加を呼びかける。	選挙期間中	県選挙管理委員会ホームページ https://www.pref.miyazaki.lg.jp/senkyo/
その他各種啓発	テレビ、ラジオ番組等各種広告媒体の利用、啓発資材の活用など、様々な場所、手段を利用した効果的な啓発活動を実施する。	選挙期間中	MRTテレビ「Check!」 UMKテレビ「NewSmile」 MRTラジオ「GO!GO!ワイド」 FM宮崎「耳が恋した」

○キャッチフレーズ：「参加しよう、明日のために。行こうよ投票へ！」

参加しよう、明日のために。行こうよ投票へ!

投票日 令和8年

2/8日

投票時間 / 午前7時 > 午後8時

第51回 衆議院議員総選挙

最高裁判所裁判官国民審査

期日前投票

衆議院議員総選挙 1月28日 > 2月7日

最高裁判所裁判官国民審査 2月1日 > 2月7日

詳しくは、こちらをご覧ください。

選挙情報配信中 @kagurameisui 神楽めいずくん

宮崎県選挙管理委員会 市町村選挙管理委員会 明るい選挙宮崎県推進協議会 市町村明るい選挙推進協議会

○商業施設等における街頭啓発

① 日程・場所

令和8年	1月29日(木)	宮崎駅前
	1月31日(土)	イオン都城SC
	2月1日(日)	イオン延岡SC
	2月5日(木)	宮崎山形屋前
	2月7日(土)	イオンモール宮崎



- ② 参加者
宮崎公立大学選挙啓発部「ライツ」
みやざき犬「かあくん」
県選挙管理委員会職員
- ③ 配布資材
チラシ、ポケットティッシュ、不織布マスク

○テレビ、ラジオ等による広報宣伝

- ① テレビスポットCM放送
1月27日から2月8日（投票日）までの13日間
MRT 宮崎放送 15秒CM…50本
UMK テレビ宮崎 15秒CM…60本
- ② ラジオスポット放送
1月27日から2月8日（投票日）までの13日間
MRT 宮崎放送 20秒CM…40本
FM 宮崎 20秒CM…40本
- ③ テレビ・ラジオ番組等
MRT テレビ「Check!」
UMK テレビ「NewSmile」
MRT ラジオ「GO!GO!ワイド」
FM 宮崎 「耳が恋した」
- ④ 街頭ビジョン等放送
 - ・宮崎駅前ビジョン（宮崎 AMU VISION）
（1月28日から2月7日の11日間）
 - ・一番街ビジョン
（1月27日から2月8日の13日間）

○その他の啓発活動

- ① 市町村での啓発
 - ・ポスターの設置、啓発資材の配布（ポスター、チラシ、ポケットティッシュ、マスク）
 - ・広報車での広報
- ② 店舗等での啓発（ポスター掲示）
掲示・配布場所：県内大学、商業施設、金融機関、コンビニエンスストア等

③ インターネット広告等の啓発

(1月27日から2月7日)

・LINE 広告	表示回数	602,077回
・YouTube 広告	表示回数	234,951回
・Instagram 広告	表示回数	266,666回
・X 広告	表示回数	618,140回
・Tver 広告	表示回数	33,786回
・Abema 広告	表示回数	50,655回
・インフルエンサー等による投票呼びかけの動画投稿	視聴回数	17,503回
・UNIVERSE Ads 広告	表示回数	344,788回
・UMK アプリバナー広告		

④ 懸垂幕の設置

本庁、県内各庁舎（8箇所）

⑤ 新聞・選挙公報による啓発広告

「県政けいじばん」（県内5新聞）、選挙公報広告

⑥ 県内自動車学校での啓発

県内自動車学校（20校）にて、のぼり幕を設置。



⑦ 割り箸袋を活用した啓発

宮崎県仕出し弁当協会及び宮崎市内飲食店数カ所の協力により配布。



投票へ行こう!



令和7年度啓発の記録

(問合せ先) 宮崎県選挙管理委員会
明るい選挙宮崎県推進協議会
宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL 0985-26-7024
FAX 0985-27-7919
